

## 今月のトピックス 「イネクロカメムシについて」

### 1 イネクロカメムシを知っていますか？

斑点米カメムシ類は水稻の重要害虫です。ところが近年、斑点米カメムシ類でないカメムシが水稻の重要害虫になってきました。イネクロカメムシといえます。

イネクロカメムシは直接減収をもたらします。時には斑点米も作るので品質も低下し、多発生の圃場では踏んだりけったりの惨状になります(図1)。



図1 手前は激発して全面白穂

発生した圃場には毎年侵入するようになる傾向があるので、被害が出てからあわてないようにイネクロカメムシの理解を深めておきましょう。

### 2 どんな虫？

成虫は体長 1cm 弱の大きさで、真っ黒な小判型です(図2)。幼虫は薄茶色をしています(図3)。年に 1 回しか発生しません。成虫が林や土手で越冬し、5~6月に水田に侵入して産卵し、新しい成虫は8月中頃から現れます。



図2 成虫(土で汚れている)



図3 幼虫(軟らかい)

### 3 被害の見分け方

大きいカメムシですが、日中は株元にひそんでいるのでよく探さないとみつけられません。分けつ期には、葉先のちぢれ等の被害を目安にすると見つけやすいでしょう。成虫と幼虫が共に水稻の茎から汁を吸うので、吸い痕が黄化(図4)するのが特徴です。

6月頃： 葉先のちぢれ(図5)、葉を横断する傷(図6)

7月出穂までの被害： 葉先枯れ(図7)、葉を横断する傷、株萎縮

出穂以後： 穂出すくみ、白穂、下葉枯れ、株萎縮、株の枯死、登熟不良

収穫時： 原因をいもち病と間違える人もいる



図4 茎の黄化



図5 葉先のちぢれ(写真：三重県農業研究所提供)



図6 葉を横断する傷



図7 葉先枯れ

### 4 対策

いもち病と間違えて殺菌剤を散布していると、被害が防げません。正しくカメムシ用の殺虫剤を使えば防除できます。早期発見・適期防除が決め手です。6月末頃の成虫対象が防除適期です。7月中旬には幼虫の加害もひどくなり始めるので、遅くともそれまでに防除しましょう。